

# 論壇

昨年から今年にかけての国際社会の変動は、まさに脱二十世紀的な歴史の道程であった。革命と戦争に彩られた二十世紀が、反・革命(脱社会主義)と脱冷戦へと決定的に移行したからである。このような時期に去る八月初旬、イラク軍のクウェート侵攻が起こったので、世界の耳目は湾岸情勢に集中したけれど、より長い歴史的文脈では、中国民主化運動の高揚とその悲劇、東欧社会主義の崩壊、ソ連の動揺、マルタ体制、ドイツ統一、ヨーロッパ不戦同盟へと動いたこの間の脱社会主義と脱冷戦の座標軸がくつきりと浮き彫りされざるを得まい。

## 中東貢献策をめぐって 憲法論争を展開

### 過熱の割には 夢のあとの感

このような変動の核心をわが国の論壇はこの一年、果たしてとらえ得ただろうか。湾岸危機に由来する国連平和協力法案や自衛隊海外派兵問題への賛否が派手な見出しで誌面に飛び交い、議論が過熱した割には、いずれも「夢のあ

く糾弾したものである。こう奥平康弘「憲法の転機としてした論調のなかで、事もあろうに、自衛隊生みの親の一人憲法学者の危惧を集約する」とも言われる後藤田正晴・元内閣官房長官が「海外派兵」の擧論を排す(『月刊Asahi』十二月号)で強

中東貢献策をめぐって国会内外で議論が起りつつあったとき、佐藤誠三郎「いまこそ安全保障戦略を転換せよ」(『中央公論』十月号)は集団的自衛権は合憲だとの立場を強く唱え、海部首相の

### 中堅の論客が さわやかな論



中嶋 嶺雄

右に見た論壇の亀裂は、かなり深刻であり、容易に交叉し得ないが、そうしたなかで中谷蔵、中西輝政、北岡伸一、五百旗頭真、山内昌之、石川好、長谷川三千子らの中堅の論客が『Voice』

議員。四月二十五日 参議院議員。四月三十日 市町村議員。新聞は、「民主日本 足固めの選挙」と形容した。

## 講和條



議会で、とたんに議員たちの関心と話題は選挙に集中したが、この日、貴族院本会議で無所属議員佐々木惣一が講和問題をとりあげた。 「今や講和会議に臨む準備を始

六月号)などが国際経済全体を見渡したスケールの大きな議論を展開していたが、一連の石原慎太郎発言もあって、当面、日米摩擦は癒えそうにないだろう。

### 動向左右する 編集長の交替

最後に一言。論壇の動向を左右する編集長が各誌で交替した。『朝日ジャーナル』は初の女性編集長・下村満子が話題を呼んでいるけれど、『創

## 黒板

◆梓会出版文化賞決まる 第六回梓会出版文化賞(出版協会主催)は、正賞が畠文社に、特別賞が葦書房と径書房の二社にそれぞれ授賞と沃まった。